

千西一遇

第54号
発行
2019年
5月27日(月)
上田西高
新聞委員
会編集局
編集局長:下谷梓
撮影:奈良本祥

選抜に続き 全国を目指せ!!

箱山

卓球歴7年 「ずっと練習を真面目にする選手」



箱山が卓球を始めたのは小学3年生のとき。お兄さんの卓球の練習についていってやってみたりして、そろそろ出来るようになったら、練習したいと思ったのがきっかけだった。

卓球という競技は打ち合ふ競技に思われているが、全ての球技の中で一番回転の影響を受け、回転をどのようにつかえ、返すか。どの角度で当てれば入るか。それらを考えることはすごく繊細で、

とても難しいのだという。

高校時代、自らも上田西高生として全国大会に出場し、今は卓球部男子を指導する村上海監督は、箱山について「ずっと練習を真面目にする選手。例えば試合で上手いかなったとて、それがあれば次の試合までそれを活かせるように直す力がある」と高く評価している。村上海監督が上田西に在籍していた頃と比べると今の卓球部は練習内容のレベルは高く、技術レベルもすごく高いそうだ。しかし苦しい練習をしていないので、勝てる時は勝てるが、「もともとと頑張れるんじゃないか」と思っている「と話した。

最近のオリンピックの世界大会で活躍する日本人選手が目まぐるしく増え、卓球が出来る場所も少しずつ増えているようだ。箱山も「卓球のレベルは高く、技術レベルもすごく高いそうだ。しかし苦しい練習をしていないので、勝てる時は勝てるが、「もともとと頑張れるんじゃないか」と思っている」と話した。

箱山に今注目しているのは、張本智和選手についても話を聞いてみた。張本選手については、正卓球をやっている人からしたら人間とは思えない(しい意味で)そうだ。ちなみに張本選手が発する「チョロイ」という掛け声は卓球選手みんなが使っている。箱山も「卓球のレベルは高く、技術レベルもすごく高いそうだ。しかし苦しい練習をしていないので、勝てる時は勝てるが、「もともとと頑張れるんじゃないか」と思っている」と話した。

卓球は子供からお年寄りまで幅広い年代の人が年齢に関係なく楽しめるスポーツだ。試合に出場したりはしないが、卓球を楽しんでいる人も多い。これからまたお兄さんの人に卓球を楽しんでほしいと、上田西高校の卓球部のますますの発展を期待がかかる。

インターハイ東信大会結果

団体	決勝トーナメント		
準決勝	上田西	3-0	小諸商
決勝	上田西	3-0	上田
シングルス	決勝		
箱山(上田西)	3-0		山井(上田)
ダブルス	決勝		
箱山・山田(上田西)	3-2		岡松・小宮山(小諸商)

3月26日(火)に行われた全国高等学校卓球大会で、卓球部の箱山(進学コース3年7組 上田 中出身)が全国16位となった。本人、監督ともこの結果には満足していなかったが目標とするインターハイ出場にむけて5月11日(土)、12日(日)の東信予選では結果を残した。箱山率いる上田西卓球部の活躍に注目が集まる。

全国選抜で16強入りも課題残る 村上監督「ベスト4入りを目指せた」

全国選抜出場を決めた箱山は予選1リーグ1戦目は奈良朱倉高校の長江将志選手と対戦。この選手はラリーがうまく選手だったため、箱山は「ラリー負けをしないようにいろいろな所に打ってコースを読まれないように意識した」と話した。結果、見事3対1で勝利を収めた。2戦目は前橋商業高校の丸山諒選手と対戦。この選手は左利きの選手だったため、「フォアのストリートで相手のいないところに打ち抜くことを意識した」と箱山。この試合を3対1で制し、決勝トーナメント進出を果たした。

決勝トーナメントの都城商業高校の片平康太選手との試合では、さすがの箱山も簡単に打たせてもらえなかったそうだ。0対3で敗れたこの試合を「3球目はどりあえ

インターハイ 東信大会では見事に3冠達成 全国選抜での課題も改善

全国選抜での反省を生かすべく挑んだインターハイ東信大会。この大会で箱山は、団体・シングルス・ダブルス全において優勝を果たした。この結果について箱山は「3冠を取るの目標だったので、取れて嬉しかった」と安堵の表情を浮かべた。また、インターハイ東信大会を「ダブルスの試合は難しく、フルゲーム3対2でギリギリで勝ちとった試合が結構あり、すごく危なかった。それに対してシングルスは取られたのは1ゲームだったので、良かった」と振り返った。東信大会での課題については、「ミスが多く見られたので、ミスを減らさない」と県では勝てないではないかと話した。

全国選抜後の取材では、5球目のドライブを敗因に上げていた箱山。今回の大会では、「ドライブの練習を強化し、試合で5球目まで繋がるようになった。前よりはだいぶ攻められるようになった」と話した。箱山はさらに、「自分の武器ドライブなので、県大会でそこは自信を持ち振ってほしい」と月末に迫ったインターハイ県大会を見据えて続けた。インターハイへの意気込みについては、「県で3、4人しか行けないのでなかなか

ず入れ、5球目で勝負しようとしたがうまくいかなかった。レシーブも攻めを意識したが、サーブがこに来るかわからなかった」と振り返った。また回転も分かりづらく、攻めづらかったという。

卓球部男子の村上海監督は今回の箱山の全国16位という結果について「個人的な意見としてはベスト4まで行けると思っていたのでなんでも負けたらいい感じ」と話した。また、「彼の本来の力が出ればあの試合(都城商業片平選手との1戦)は勝てたと思っています。でも彼が負けたのもある意味必然で、あとほその負けた理由を本人がどれだけ本気になって考えてくれるかじゃないかと思ってます」と次戦以降の箱山の奮起を促すように話した。

箱山自身は、敗因は5球目のドライブだと話していたが、監督は箱山の敗因について「5球目のドライブというより、5球目が入らなかったのは、自分の気持ちがついてこなかったからで技術ではない。箱山が自分のプレーに自信を持って攻め続けていけば、普段は入るし、その球で勝てると思ってる。そこを強い気持ちをもてなかったのが彼の敗因」と話した。

次戦以降の目標について箱山は、「今回の大会では技術的に言うところ5球目のドライブなど普段練習してることがあまりできなかったのを練習して出来るようにしたい。最後の大会で団体で北信越、シングルでインターハイに行きたい」と力強く話された。



上田西高校卓球部
男子10名(3年生2人、2年生3人、1年生5人)
女子7名(3年生3人、2年生1人、1年生3人)
男子監督:村上海
女子監督:片桐拓磨
男子は北信越大会出場を、女子は県ベスト4入りを目指し日々練習に励んでいる。

(松木明愛)

(石田りん花)